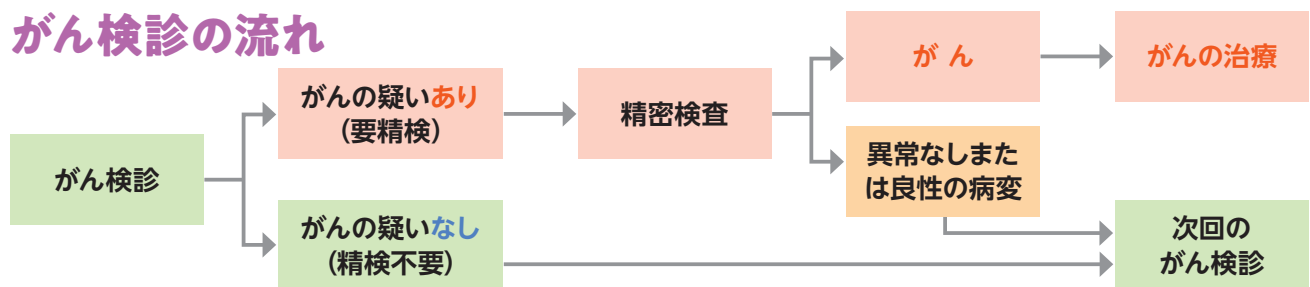


みつけて、対策 5大がん検診

がん検診の目的は、異常の疑いがある人とそうでない人をふるい分ける検査(=スクリーニング)です。したがって、一次検診の結果でがんの疑いがあるといわれた場合は、二次検診(精密検査)をしてみないと、がんであるかどうかの正しい判断はできないのです。つまり、がん検診で、「要精密検査」や「要治療」の判定を受けた場合は、早期に精密検査を受け、必要な治療を行うことで、がん検診を受けたメリットになります。がん健診結果で、要精密検査・要治療の判定があったら、必ず受診しましょう。

がん検診の流れ



女性のがん

マンモグラフィ検査

透明なプラスチックの板で乳房を挟んでX線撮影する検査で、しこりをつくる前のごく初期の乳がんを発見できます。多少の痛みがありますが、月経前の胸が張る時期を避けると痛みを軽減できます。



超音波検査

乳房に超音波を当て、その反射波を画像に映し出すことで乳房内部の状態を確認します。

女性のがん

子宮頸がんに関する検査

細胞診検査

子宮頸がんの発生しやすい子宮頸部や膣部の表面粘膜を専用のブラシやヘラで軽くこすり、細胞を採取して顕微鏡で調べます。痛みはほとんどなく、短時間で済みます。がんになる前の「異形成」の段階で見つけられることもあります。



乳がんの精密検査

- 穿刺吸引細胞診
しこりなどに細い針を刺し、吸引した細胞を顕微鏡で詳しく調べます。
- 針生検
注射針よりも太い針をしこりに刺して組織を採取し、顕微鏡で詳しく調べます。細胞診より正確な診断ができるとされています。

子宮頸がんの精密検査

- コルポスコープ下の組織診や細胞診
コルポスコープという拡大鏡のような機械を使いながら組織や細胞を採取して、顕微鏡で詳しく調べます。
- HPV検査
子宮入り口の部分の粘膜から細胞を採取し、子宮頸がんを引き起こす可能性のあるHPV(ヒトパピローマウイルス)感染の有無を検査します。



胸部X線検査

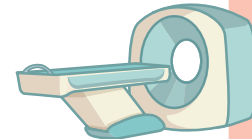
肺がんに関する検査

フィルムに映し出された影などをチェックして肺の状態を調べる。末梢型肺がんの発見に有効。ただし、骨や心臓などに重なる部分ではある程度の大きさにならないと発見できません。



肺がんの精密検査

- CT検査
さまざまな方向から連続して撮影した画像をコンピュータで解析し、がんの大きさや場所など、X線検査より多くの情報が得られます。
- 気管支鏡検査
口や鼻から内視鏡を入れて、気管や気管支の状態を観察し、組織や細胞を採取します。



大腸がんに関する検査

便潜血検査

自宅で採取した便を提出し、便に血液が混じっていないかどうかを調べます。症状がない健康な人から、大腸がんの精密検査が必要な人を選び出すためには、最も有効で負担の少ない検査法です。



大腸がんの精密検査

- 大腸内視鏡検査
大腸を内視鏡で観察する方法で、がんやポリープに対する診断が高い確率で可能なことが特徴です。まれに出血や腸に穴が開くなどの事故が起きる可能性があるため、比較的高度な技術を必要とします。



胃がんに関する検査

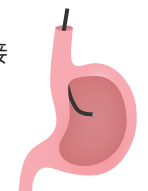
ABC検査(胃がんリスク層別化検査)

胃がん発生と関係があるとされるピロリ菌感染の有無を調べる検査と胃粘膜の萎縮(老化現象)の有無を調べる検査(ペプシノゲン)を組み合わせ、胃がんになりやすいかどうかを分類する血液検査です。ABC検査でピロリ菌感染が判明した場合、適切な除菌治療(胃内視鏡で胃炎を確認すれば保険適用)を行うことができます。

※ABC検査は原則として成人の場合は生涯1回でよいとされています。ピロリ菌の感染は幼少期までに起こるので、一度、A群(ピロリ菌の感染なし・胃がんリスクは低い)と判定されれば、原則その後の判定は変わらないためです。

胃がんの精密検査

- 胃部内視鏡検査
内視鏡を口から入れて胃の中を直接観察します。
- 生検
胃内視鏡検査時などに、組織を採って顕微鏡で詳しく調べます。



2次検診に対する補助制度

胃がん・大腸がんのオプション検診の結果で所見があった場合は、個別に精密検査のご案内をお送りいたします。内視鏡検査に対する補助金の申請方法など、詳細は個別のご案内でご確認ください。

胃がんリスク検診(ABC検査)

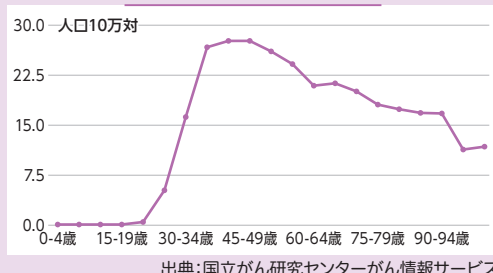
胃部内視鏡検査(胃カメラ)
上限5,000円の補助

大腸がん検診(便潜血検査)

大腸内視鏡検査
上限10,000円の補助

子宮頸がんが若い人に増えている?

年齢階級別罹患率 2018年



特に注意が必要な人

下記の方は子宮頸がんにかかるリスクが高いため、子宮頸がん検診を積極的に受けることをおすすめします。

- 月経時以外の出血がある
- 下腹部の痛みがある
- 茶褐色のおりものが増えた
- 性交時に出血性のおりものがある
- 喫煙している



子宮頸がんは若い人に増えており、30歳代後半から40歳代でかかる可能性が最も高いがんです。「がんなんて私にはまだ関係ない」という考えは禁物です。